

ふじみサラダボール子育て情報



「家庭から社会へ」

令和2年7月1日号

板橋富士見幼稚園



子ども同士の出会いは我慢を学ぶ場

子どもは成長と共に、親子から家族、そして親戚へと人の輪が広がり、やがて他者といわれる地域の子どもの同士や園での仲間と、遊びや生活を通してつながりが広がっていきます。

幼児教育では、人が人として生き大成するために、人との小さな交わりから、次第に大きな社会に参加し、その中で様々な知識を獲得していきます。

今まで家庭という中で大切に育てられてきた子どもも、ある時期から自分の意に添わない出会いと葛藤しながら、一つ一つ自分の力で乗り越えていかななくてはなりません。この乗り越える経験には、家庭での愛情が大きな支えとなります。

家族に十分な愛情で支えられているという精神はとても重要で、小さな社会に一步踏み出す勇気となります。これは子どもが心置きなく親に依存できるという感覚です。だからと言って、甘やかしすぎたり溺愛しすぎたりすると、かえって自立に向かう時に不安感が大きくなり、一歩前に進む力がなかなか出ないことがあります。逆に、無理に自立を早めてしまうことで、他児との関係が保ちにくくなり、トラブルになってしまうこともあります。



では、どの程度の親子間の暮らしが理想なのでしょう。1つ目は、あまり過干渉にならないこと。2つ目は、良いことと悪いことをはっきりと説明し、経験を積み上げていくこと。3つ目は、愛情や喜びを共にしっかりと共有すること。これら3つの加減が大切となります。ただしその加減は、それぞれの大人の気質やパーソナリティーの違いにもよりますので、一概にこうすることが正しいということはありません。

時には家庭の中でも、「我慢」すること「譲る」ことを経験させ、感覚を身につけることも大切です。

友達や仲間と遊びを楽しむ中では、意見が合わない出会いがあり、その度にそれぞれが我を通そうとして、いざこざや喧嘩に発展していきます。そうしたときに、「我慢」や「譲る」ができることで、大きな成長となり、仲良く遊べるようになっていきます。

いざこざや喧嘩の全くない遊びでは、逆に成長に結びつかないことがあります。

適度な「我慢」や「譲り」のある遊びを楽しんでほしいものですね。